

職リハ学会通信

No. 179 2024年 9月発行

目次

第51回島根大会のご報告	2P
運営理事会報告	4P
委員会報告	5P
ブロック活動報告	7P
事務局からのお知らせ	8P

第 51 回島根大会のご報告

総勢 400 人規模の盛会で無事に終了しました！誠にありがとうございました！

■ 大会概要

第 51 回大会は、島根県松江市で 8 月 23 日（金）、24 日（土）の 2 日間開催されました。中国地方では 20 年ぶり、初めての島根開催。参加者は、事前申込と当日参加合計で 346 人です。講師、運営スタッフを含めると総勢 400 人規模の盛会となりました。参加者、関係者、ご支援いただいたすべてのみなさまに、心より感謝を申し上げます。

■ 大会プログラム

口頭発表 23 件、ポスター発表 28 件、自主ワークショップ 7 件の申込がありました。

大会企画としては、基調講演、基調シンポジウムのほか、大会企画シンポジウム 2 件（①効果的な就労支援の実装・普及に向けた取り組みと未来戦略、②どう活かす！？就労選択支援）、大会企画ワークショップ 4 件（①島根の就労支援～地方の特性からの学び～、②特別支援教育における進路指導と移行支援の実践、③地方における就労移行支援の実践、④IPS 伴走型個別就労支援の基礎と実際）を行いました。

学会企画としては、国際委員会企画のワークショップ「米国における自己決定支援に基づく移行支援の実践」、政策委員会企画のシンポジウム「障害者雇用・就労支援の人材確保と育成～国が示す研修体系の全体像と資格化への道筋～」、研修委員会企画の研修基礎講座 3 件が行われ、全体として大変充実したプログラムが実現しました。

また、学会総会後の情報交換会は 160 人という大盛況となり、熱い情報交換が行われました。

■ 職リハにおける本人中心を問い直す

私自身が関わった大会企画を通じて感じたことについて、簡単に振り返ってみたいと思います。

林大会長の基調講演では、本人中心が自己中心とは異なり、周囲の人・環境との関係性におけるインターパーソナルなものであること、対話やネガティブケイパビリティの大切さを学びました。

続く基調シンポジウムは、大会テーマそのものを扱いました。朝日氏の話題提供では、本人中心とは、本人のニーズや希望、課題を中心に置き、本人もチームの一員となるもので、決して「本人を真ん中において崇め奉る」ようなものではないことを学びました。小野寺氏からは、合理的配慮について、障害者側が配慮を通じて

いかに貢献できるかを説明する必要があること、本人を中心においた戦力化が企業成長に繋がり「企業側にとってもメリットがある」ことを学びました。中川氏からは、支援者はやり過ぎずやらなさ過ぎない、権利主張とわがままの違いを伝える、本人自身もチャンスを掴み挑戦してみる、周囲は本人の挑戦を邪魔しない等、大切なことをたくさん学びました。全体ディスカッションでは、「対話」「自立と成長」「十分な情報提供と体験機会の提供」「共に働き合う」「インクルーシブな働き方」など、たくさんの重要なキーワードを確認しました。本人中心を問いつけること、現場に戻った後も疑いながら問いつけること、そのこと自体が本人中心を成し得るのだということを確認しました。

大会企画シンポジウム②は、本人中心に大きく関連する就労選択支援を扱いました。鈴木氏の説明からは、制度創設の経過、理念をしっかりと踏まえることの大切さを再認識しました。倉知氏からは、「失敗」ではなく「思い通りにならなかった経験」ととらえること、「十分な情報提供と体験機会の提供」が重要であることを学びました。星明氏からは、アセスメント、多種多様なワークサンプルの活用について、「本人にどんな可能性があるかを見出す視点」の重要性を学びました。前原氏による「就労選択支援をどう活かすかは、私たちが就労選択支援をどう捉え、どう準備していくか次第であり、ぜひ各地で前向きに動き出してほしい。」との総括に、心を新たにしました。

■ おわりに

つまるところ、本人中心を問い直していくことは、「一人ひとりの自立と成長を促進し、一人ひとりがいかに能力を発揮して活躍するか」ということに繋がっていくように感じました。かながわ大会のテーマ「能力を発揮して活躍する社会の構築に向けて～新しい時代に職業リハビリテーションはどう向き合うのか」との繋がり、連続性を感じられる大会となったようにも思います。

空調が効きづらく暑かったこと、一部会場が手狭だったこと、一部抄録集に誤りがあったこと等、不手際がありまして誠に申し訳ございません。

来年、第 52 回兵庫大会にて、みなさまと再会できることを楽しみにしております。

（第 51 回島根大会 実行委員長 青山貴彦）